



ズネブ

札幌天文倶楽部会誌

2005 58^号

お 便 り コ ー ナ ー



マックホルツ彗星

こんにちは。川口裕美です。1月8日の23時半頃、晴れていたもので自宅の前で双眼鏡でマックホルツ彗星を見ました。すばるのそばで、見つけやすかったです。(新聞に彗星の位置の図説が載っていた)

双眼鏡でも薄く、ボーッとしていたので、肉眼では全然見えませんでした。百武彗星の時もそうでしたが、暗いところで見たら、綺麗なんでしょうね。1月15日の観察会は旦那が仕事なので参加できず、残念です。晴れるといいですね。では、お体に気を付けてお過ごし下さい。

川口裕美 ZUA07552@nifty.com

受信日時：2005年01月10日 15:02

も、申し訳ありません！

引越しのご連絡もせず申し訳ありませんでした。なかなか本社にすることがなく、たまに帰ってメールを見ると、100件以上の新着未読文書がたまることもざらで、年末、年始もほとんど出ずっぱりのため、連絡が遅れてしまってすみませんでした。

新住所は 〒194-0033
東京都町田市木曽町2191-2 B-201
電話はまだついていないので携帯電話は
090-4549-4782

です。転送手続きはしていたのですが、もれてしまったのかもしれない。あいかわらず忙しく、なかなか根の張った生活ができずにいます。そろそろ何とかしなくてはならないと思うのですが…。そちらはいかがでしょうか。こちらは、コートも要らない日々がずいぶん続きましたが、12月も半ば過ぎて急にめっきり冬らしくなりました。今は薄ら寒い日々のなか糖尿の恐怖と戦いつつがんばっております。取り急ぎのご連絡で申し訳ありませんが、皆さんにもよろしくお伝えください、お体に気をつけて。

矢吹 浩

受信日時：2005年01月13日 14:53

会報が届きました

こんにちは。川口裕美です。昨日(1/15)、会報57号が届きました。有難うございます。大晦日に引いた風邪がまだ治らず、歳を感じております…。というか、一日でいいからゆっくり休めればすぐに治りそうなのですが…。やつれすぎないように気を付けます。では、会長もお体を大切にお過ごしください。

川口裕美 ZUA07552@nifty.com

受信日時：2005年01月16日 16:11

会報第57号届きました

デネブ57号届きました。ありがとうございます。実

家のある群馬へ帰省し、年末年始は群馬で過ごしました。札幌に戻ると、デネブ56号が届いておりました。そして、すぐに57号が発行されるとはすごいスピードですね。さて、デネブ57号の中で、今野氏の「新年のご挨拶」の中で、人生70年とみて、折り返しになっているとの趣旨の発言には、ここ数年同様なことを感じていたこともあり、共感するばかりです。今年は、一歩前進したいと改めて思いました。

加賀栄一・佳苗 ekaga@seagreen.ocn.ne.jp

受信日時：2005年01月17日 00:49

お久しぶりです

今日は！ お元気ですか？ 先日のマックホルツ彗星観測では、肉眼で観えたようで…、うらめしい…、いえいえ、羨ましいです。会報57号頂戴しました。有難うございます。天文カレンダーも頂戴しました。これまた有難うございます。いつもすみません。でもでも、末沢さんのお子さん、かわいいい～ですね～ホント！ 会長のおっしゃる通り、いい感じのかわいさですね。あまりの可愛さにホームページを開いてカラーでも見てしまいました。では、風邪などひかれませんように、お気をつけ下さい。失礼します。

佐藤麻子 umibuta-dolphin-kick@jcom.home.ne.jp

受信日時：2005年01月17日 12:41

会報届きました

こんばんは。谷口明美です。今年もよろしくお願いします。会報届きました～。まだ読んでいませんが、休みの日にゆっくり読むつもりです。1月14日に自宅の前でマックホルツ彗星を見ました。最初はなかなか見つけられず、一旦家に帰ってネットで位置を確認してから、もう一度挑戦して、やっと双眼鏡で捕えることができました。ずっと見てると首がすごく辛い位置にありましたね～。「すばる」から離れてしまうと、探す手掛かりが無くて私には見つかるのが大変です。

谷口明美

受信日時：2005年01月17日 22:10

忘年会の感想文です

こんにちは。とっても遅くなりましたが、忘年会の感想文を送ります。それでは、お体に気を付けてお過ごしください。

川口裕美：ZUA07552@nifty.com

受信日時：2005年2月5日 12:06

オーガニック・チョコ

今日(2/14)、ちゃんと届いてよかったです。1人で食べると体を壊す量なので控えめに食べてくださいね。埼玉の春日部では事務(雑用)をやっています。相変わらず自然食品系の会社でチラシ等を独学で(全然たいしたことありませんが)イラストレータなどを駆使して(使うアイコンはいつも同じだが)チラシなど作成してたりします。いい勉強です。年賀状を作るのが毎年、楽しみになります。今年のも私のニックネームの“ばたこさん”、かわいかったでしょう??(ちょっと自慢したかった…)札幌は今年もたくさん雪が降っているのですね。雪祭りが…。毎年、欠かさず行っていたのに今年は行っていない。くう～。来年は計画立てて行きます！ 今年の雪祭りの画像、あったらどこかにアップもしくは送っていた

だけたらうれしいです。星とは全く関係ない話は随分長くなってしまいます。また、近況報告いたします。風邪など引かぬよう、お体に気をつけてくださいね。それでは、また...

川端夕子 okuy-atabawak@s9.dion.ne.jp

受信日時：2005年02月15日 00：40

子供が飲んでいます

年末には、お邪魔させていただき、ありがとうございました。お礼が大変遅くなってしまい申し訳ありません。スペースシャトルは、息子の新しい机に再び箱に入れて飾ってあります。美香さんにも、いろいろ子どもたちにいただき、ありがとうございました。娘はねこちゃんのマスコットをとて気に入って、あの後、じいちゃんやばあちゃんたちに、「これもらったのー」と見せていました。壮太郎は、父親が帰省してきたらすぐにスペースシャトルのこと報告していました。そして、ちゃんと自分のリュックに入れて大事に持って帰りました。本当にありがとうございました。

会長宅訪問記

2004 年も押し詰まったある日の午後、私スエザワ(もと渋谷)は約 1 年半ぶりに会長宅にお邪魔しました。机の上には美香さんの用意してくださったお菓子がたくさん。そして、久しぶりにお会いするものの、初めて科学館でお目にかかったころとまったく変わらない(なぜ?) 会長が私たちを出迎えてくれました。

机の上のお菓子に、子どもたちは目が釘付けになるものの、いつも私の許可が必要なので、まず手は出しません。特に上の子は。会長「おとなしい子達だな、しつけがいいんだな」。私「いえ、まだ、なれないんでネコかぶってるんです...(謙遜では決してありません)」。で、とりあえず私の OK が出たので、お菓子にありつける 5 歳児と 2 歳児。いつもあまり与えられていないので、何でも食べます(恥ずかしい)。会長「何か飲み物いるか?」。私「水でいいです。水で...」。会長「ほんとか?」。私「いいんです。うちではジュースなんか出ませんから、慣れます」。で、流しの蛇口から会長じきじきに汲んでいただいた水をもらう子どもたち。札幌の水はおいしいのよ。

間もなく、会長が箱入りの立派なスペースシャトルの模型を奥の部屋から持って戻ってきました。会長「前に来たときな...、何もやらなかったら、うちのやつに後で怒られたから、これやるわ...」。息子「.....(なぜもらえるかよく分かっていない)」。そういえば、前回そんなことがあったような気も...。私はすっかり忘れていたのに、覚えていただいていたありがとうございました。

息子は、実家に戻るとすぐにスペースシャトルを箱から出して、格納庫から衛星(ハッブルスペース望遠鏡)を出して組み立てて喜んでいました。ちゃんと格納庫に衛星がおさまっていて、取り出したりしまったりすることも出来るなかなか精巧なもので、スペースシャトルが好きな息子には何よりでした。

息子は会長家のサイドボードの中の、いろいろなものにも興味津々で眺めていて、立派な木彫りのスペースシャトルにも目を留めていましたが、そこは、子どもにはご法度な領域なのでありました。しかし、うちの息子も、どこかに行くとかならず置物系のものを欲しがります。将来、同じようなサイドボードを持つようになるような気がします....。

そのうちに、美香さんがご帰宅。美香さんも初めてお会いしたときと、ぜんぜん変わりません。なぜ? ここのご夫婦はそろっていつも変わらないの?(うちの夫婦など、ダンナは白髪と体重が増えて、誰にも「老けたなー」と言われ、学生時代からはすっかり別人に。私は...、どうでしょう)

さて、美香さん子どもたちのために、いろいろ買ってきて下さいました。お菓子やら、ジュースやら、おもちゃやら。更に目が輝く子どもたち(うちでは、なかなか出てこないものばかり)。水しか飲んでなかったうちの子達を見て、「えー、ひどい」と美香さんが会長におっしゃっていましたが、ひどいのは会長ではなく母の私です。娘は、くわえた魚をひっぱると“ぶるぶるふるえるネコ”の小さなぬいぐるみに大喜び。ばあちゃんち、でも大事にしてみんなに見せ、帰りの飛行機の中の退屈な時間も、ネコちゃんずっと持っていました。今も「大事なもののバッグ」に入っています。息子は、食べるものの方に心奪われ、またジュースとおやつの世界に没頭。

で、このころには本性が表われ、うるさい小僧になってました。私にまとわりついたり、妹とけんかしたり。そして、娘は娘で、せっかく見せてもらった会長の写真のファイルをぐちゃぐちゃにしそうになり.....。そんなひどい状況になっていったにもかかわらず、美香さんの提案? で、うちの子供たちが、なんと会長に抱っこしてもらえることに! 「なかなか見られないよー」と、美香さん。

まずは、2 歳半の娘。結構なついてます。しばらく一緒にいたので、すっかり慣れました。それから、そろそろ 6 歳の息子かなり照れています。もう、なかなか抱っこしてもらえない歳ではないので、うれしいんです。いやいや、世の中 10 年前には予想もしていなかったことが起こるものです。

また、10 年後には何が起きているでしょうね。未永く、よろしく願いいたします。

未澤朋代

受信日時：2005年02月15日 02：23

記念写真ありがとう

早速、お写真ありがとうございます。2、3 日中にデジカメの写真をプリントしに行こうと思っていたので、これもプリントしてきます(前号の 1 頁の写真)。

1 月中旬にマックホルツ彗星を頑張って、双眼鏡で探してみました。ううん、これかなあ~、というのはあったのですが、いま一つはっきり分かりませんでした。私の住んでいるマンションの通路側からからしか観測できなかったのですが、運の悪いことにこちら側には東名高速道路の東京料金所の照明(球場にでもありそうな大型のものがたくさん...)が輝いていて、空の明るいことったらありません。

最初はベランダ側から見ていたのですが、どうしても屋根が邪魔になり、双眼鏡ぶら下げて玄関の扉を開けたら、よその旦那さんがちょうど通り過ぎたところでした。あと 1 秒早かったら、かなり怪しい奥さんとして記憶されてしまったことでしょう。危なかったです。たぶん、川崎の科学館のある近くの緑地では観測会も行われていたと思うので、ちゃんと見れば見つけることは出来たと思うのですが。ちょっと残念でした。

未澤 朋代

受信日時：2005年02月15日 20:56

雪像の写真ありがとう

お礼が遅くなりましたが、雪祭りの画像、ありがとうございます(今号の表紙写真画像)。ヨン様、なかなかっこよく作られていますね。これは・・・次号のデネブに大きく載るのでしょうか。楽しみです。北海道は、雪一色ですよ。関東は...

先週、筑波山にある梅林に行ってきましたが、梅が少し咲き始めました。写真を撮るのをすっかり忘れて散歩して次の日、筋肉痛でした(農家の手伝いの後に行ったので余計に疲労がきたのでしょうか)。また今度、行ったときはちゃんと写真を撮って送りますね。ではでは、失礼いたします。

川端夕子 okuy-atabawak@s9.dion.ne.jp

受信日時: 2005年2月20 22:25

新年会、少人数ですね

残念ながら 2/25 の新年会に私は出席できませんが、先週の土曜(2/19)、天文指導員の関東部会? が新宿であり行ってきました。各世代から 10 人集まり、なかなかの盛況でした。出席者は西片、久新、吉崎(旧姓溝口)、今野(幹事)、大島、磯松、佐藤、小林(敬称略)、末沢(渋谷)+息子(全員敬称略)でした。私にとっては久しぶりの顔ばかりで懐かしかったのですが、みんな昔と変わらず楽しく過ごしてきました。ちなみに、うちのダンナは親戚の結婚式のため娘一人連れて札幌に帰省中で、出席できませんでした。

私は、子供連れなので、残念ながら早めに帰ってきましたが、ほかのメンバーは延々 4 時間半店にいたそうです。2 次会もあったとか。我が家から新宿までは電車を乗り継ぐ(東急線から、渋谷で山手線に乗り換え)という王道のほかには高速バスが使えます。電車だと 1 時間近く道のりがバスでは 30 分。しかも、うちからは東急線の駅より高速のバス停の方がはるかに近いのです。ただし、怖いのは乗り越し。高速のインターごとにはしかバス停はないし、終点は御殿場。寝過ぎすわけには行かず、緊張しました...

関東に引っ越して来たおかげで、懐かしい集まりにも顔を出せるようになりました。

末澤朋代

受信日時: 2005年02月24日 20:21

今日は...ご無沙汰しております

お元気ですか? 土曜日(2/25)の新年会は、風邪の為欠席し残念でした。忘年会(12/15)欠席の阪野さんに会いたかったのになぁ。あつ、会長にも...勿論。あ、もう遅いか。しかし、少人数で寂しい会だったようですね。女っ気が、佳苗(加賀)さんだけだったとは! 会長は風邪などひいていませんか? あ、そうそう、先日佐藤家に来たお坊さんが、何やらマスクをして妖しかったので母が「風邪ですか?」って聞いてみると、「インフルエンザで昨日まで寝てました」だって! それに、まだ感知していないらしい。いくら坊さんだからって、ウィルス撒き散らしにわざわざ来るな~! って感じですよ。驚きました。もちろん「お経は短くて良いですから、早めにして下さい」と母が頼んでくれ、早々にお引き取り頂きました。私は風邪がまだ感知していなかったし、恐ろしかったです。全くもう、怒ってしまいます。坊主の袈裟まで憎むところでした。これは蛇足ですが、そのお坊さんは身長が 2 メートル以上あり、いつも見上げて感心し

ています。では、3 月 5 日の春の星座観測には行けると良いのですが...。失礼いたします。

佐藤麻子 umibuta-dolphin-kick@jcom.home.ne.jp

受信日時: 2005年02月27日 17:49



由美子の話題のコーナー

自作のマイコンカーの走りを競う「ジャパン・マイコンカーラリー 2005」(全国工業高校校長協会などの主催)が 1 月 8 日、2 日間の日程で札幌市中央区の NTT 北海道セミナーセンターで行われました。

同ラリーは決められた部品を使ったマイコン制御の模型車を幅 30 ㍉、全長 60 ㍉のコース上で走らせタイムを競うものです。道内の工業高校の教員有志が提唱して始まり、今年で 10 回目。全国の予選を勝ち抜いた 243 台が出走しました。

車はセンサーでコース中央の白線を読みとりながら走ります。コースやクランクやカーブ、坂道も設けられコースアウトする車も続出する状況でした。高校生の部、一般の部で成績上位だった各 32 台が 9 日全国一をかけてトーナメント戦に挑みました。我が阪野テクニカル工場の阪野カーも一般の部でエントリー。順調になみいる車をおさえて 2 日目に進出。トーナメント戦では確実に勝ちあがり、ついには決勝戦までいきました。第 1 回大会で「準優勝」をとっている実力で、工房の技術力の高さを誇るものです。

決勝戦。横須賀の防衛大学チームと対戦。スタートの



準優勝を讃える表彰状

時点から、圧倒的スピードで相手を引き離し、制御力とスピードにまさる阪野車はゴールあと5mというところで勢い余って脱輪。もう少しというところで優勝を逃しました。「試合には勝っていたんだけど...」。自らの脱輪で墓穴を掘ってしまい惜しかった...のでした。

来年の優勝目指してまた頑張る？とのことでした。

由美子の韓流コーナー



「冬ソナブーム」も去って、現在は「美しき日々」と「天国への階段」他が放送されていますが、皆さんは如何でしょうか？日本中に大ブームを呼んだ韓国ドラマ「冬のソナタ」。そのヒットメーカーのユン・ソクホ監督が、「冬のソナタ」「夏の香り」へ続く《四季》シリーズの第1弾として最初に手がけたのが「秋の童話」です。2000年秋に韓国KBSで放送され平均視聴率30%を越え、最高視聴率は42%に達しました。その後、アジア各国で放送され人気が爆発し、アジア中に韓国エンターテインメントブーム、いわゆる《韓流》が生まれるきっかけになった作品です。その火付け役となったドラマが「冬ソナ」ではなく、これだったんですね。衛星放送が3月1日から、地上波ではフジ系TVで午後3時半から始まりました。

主演の3人は日本にもファンが多い韓国2大美男、「夏の香り」のソン・スンホンと映画「ブラザーフッド」のウォンビン、そして「オールイン運命の愛」の国民の人気女優ソン・ヘギョ。「冬のソナタ」の舞台にもなった江原道(カンウォンド)を舞台に、兄妹として育ちながらも、本当の家族ではないことが分かって引き離された、男女の純愛ラブ・ストーリーが切なく展開していきます。

愛情豊かな両親のもとで育った仲のよい兄妹、ユン・ジュンソ(ソン・スンホン/少年時代はチェ・ウヒョク)とウンソ(ソン・ヘギョ/少女時代はムン・グニョン)。14歳のある日、交通事故に遭ったウンソは軽傷で済むものの、血液型から両親の子ではないことが明らかに…。調べた結果、同じ病院で生まれたシネ(ハン・チェヨン/少女時代はイ・エジョン)が本当の娘であることが分かります。そして紆余曲折、ウンソもシネもそれぞれ元の家に戻ってゆくのです。

10年後、ウンソは自分が働くホテルのオーナーの御曹司、ハン・テソク(ウォンビン)から思いを寄せられますが、偶然再会したジュンソに対し強い愛情を抱いていました。でも、ジュンソにはシン・ユミ(ハン・ナナ)という婚約者がいて、さらに、ジュンソはテソクの親友だったのです。

複雑な人間関係の中、ジュンソとウンソは純愛を貫ぬ

くことが出来るのでしょうか...！？

ソンヘギョ アルバム

はかなくもせつない彼女の魅力をたっぷりご紹介

冬ソナのチェ・ジュだけが韓国を代表する美女ではありません。やっぱり大本命は彼女、ソンヘギョ...でしょう。ところでこのドラマで光っていたのは彼女だけではありません。韓国のキムタクことウォンビンの演技力も相当なものです。TV画面を見ながら、「どうして」「なぜ」とウォンビンの方がいいのに...と、主人公の男優より思いを込めて見ていたファンも多いはず。支離滅裂な意味不明が多い韓国ドラマにあって、この作品は第1作ということもあって、筋道が良く練られています。



<2004年12月15日(水曜日) 鮎政にて>
かなり肉付けした忘年会レポート
- 2004年, 1年ぶりの倶楽部行事 -

日 程：2004年12月15日(水) 19時から 場 所：厚別区青葉町「鮎政」の座敷
参 加：渡辺和郎会長・佐藤智秀・佐藤麻子・川口裕美(桜来)・加賀栄一・かなえ(大智)・菊地さち子・垣内睦美
・中島由美子・谷口明美・小出美穂 以上11名+2匹(頭)?

川 口 裕 美



前列左から渡辺和郎会長・中島由美子・垣内睦美・川口裕美(桜来)・菊地さち子, 後列右から佐藤智秀(円内)・加賀栄一・加賀かなえ(大智)・小出美穂・谷口明美・佐藤麻子

会長「気を付けて帰れよ。また、メール下さい」。帰り際、会長からいつものラブコールを頂き、焦ってしまっただ。マズイ！会長と私の仲がパレるではないか。川口「何、言っているんですか？いつもメールなんてしていないじゃないですか...」。慌ててその場を取り繕ってはみたが、もう遅い。何となく怪しいムードが...って、んなワケないだろう！会長「お前は、編集委員なんだからな！」。そう、メールはメールでも、感想文を添付したメールをくれというラブコールだったのだ。いやあああ...！...そんな、ラブコールはいらな～い！ どうせなら、本当のラブコールを下さい...。いえ、やっぱり、感想文の方でいいです。ということで、仕方が無いので感想文を提出することにします。

12月に入った某日、佐藤幹事から“忘年会の日”にちについての案内が来た。日にちはいつでも良いが、子連れのため、忘年会には参加せずに顔だけ出してすぐに帰るという返事を書いた。だが、日時等の詳細案内が来ると、私の計算が狂ってしまった。どうしよう。19時開始か。困ったなあ。開始と同時に帰るのもなあ...。子

供はいつも、18時夕食で20時就寝。忘年会会場の鮎政までは、車で小一時間かかる。なので、私は勝手に18時半開始の予定で計算をし、ちょっと早目(18時頃)に行って子供に何か食べさせ、皆の顔を見て19時頃帰ればバッチリだと思っていたのだ。それなのに、19時開始だったら顔出しのしようがないではないか。いやー、どうしよう。ホント、どうしよう。子供優先にして諦めるべきか...。何度も「残念ながら行けません」と返事を出そうとしたが、その度に何か参加できる方法はないかと考え、送信するのを思い止まった。悩みに悩み、そして、こんなに悩むのは私が会長を始め、他の会員の方々にも会いたいからだという結論に至った。いや、皆なに会いたいかどうかの真意は不明だが、確実に私が遊びに行きたがっている。この機会を逃したら、夜に散歩することはできないだろう。よし、決めた！ いっそのこと、顔出しだけではなく、参加してしまおう！ 子供がグズッたら帰ればいいさ。そして、車で寝かせればいいじゃないか。そう思った瞬間、心がパァ～ッと明るくなった。

今まで辛気臭い顔をして悩んでいたのが嘘のよう。張

り切って「私も参加します」のメールを書いた。

やったね！ メール送信と同時に宴会気分。嬉しさのあまり、ついつい顔がほころんでしまう。フンフン鼻歌まで歌ってしまう。足取りも軽く、頼まれてもいないのに何度も子供を胴上げした。それ～！ イェーイ！ 高い高～い！ 親バカならぬ、パカ親につられて子供も喜ぶ。母子共に ニコニコ、ルンルン 調子に乗って何度も胴上げしたから、気付くと私は汗だくになっていた。しかも、めちゃくちゃ腰が痛くなっていることに驚いた。それにしても、忘年会ごときでこの幸福感。よっぽど遊びたいストレスが溜まっていたのだろう。ホント、子連れで参加できる会は有難い。天文倶楽部サマサマだ。そうだ、子供が食べられるものはあるかな？ 茶碗蒸して、単品でメニューにあったかな？ そう思って幸せ気分いっぱいでも鰯政のHPを覗いた。すると、「14,300 人目のいいことあるかも？」を GET してしまった。このトップページを印刷して鰯政に持っていけば、何かサービスをしてもらえるのだ。次は 14,400 人目になり、鰯政のHPを訪れた人 100 人毎に「いいこと」がある。昨年、私の父が還暦を迎え、そのお祝いを鰯政でやったのだが、その時の「いいこと」は、飲み放題だった。鰯政のお父さんの話によると、皆んな、この「いいことあるかも？」を GET するために、何度もアクセスして大変な思いをしているらしい。大変な思いをしている人にも、サービスを提供しなくてはならない鰯政のお父さんにも悪いが、私はいつも簡単に手に入れてしまっている。とりあえず、これで今年も会長の正月帰省用お土産(?)がもらえるかも！？ なにはともあれ、私が幸せを感じられる天文倶楽部が未永く続きますように！

さて、12 月 15 日の当日。私は、同じく子連れで参加する加賀夫妻と 18 時 30 分に会場入りしようと約束していた。先に子供にご飯を食べさせるという目的もあるのだが、いきなり人が大勢いるところに行くと雰囲気は圧倒されて馴染めない可能性もあるからだ。一番乗りで鰯政に着き、子供をチャイルドシートから降ろすのにてこずっていると、加賀一家も到着。外で挨拶を交わし、一緒にお店に入った。「こんばんわー。お世話になります～」。案内もされていないのに、勝手にズカズカと座敷に上がりこんだ。奥のテーブルには既にお刺身やその他の料理が美味しそうに並んでいる。マズイ...と思った瞬間、やはりうちの子が料理につられて一目散にテーブルに走り寄った。「うわ～！ おいしそ～！」。そうだよね。お腹が空いているよね。目を輝かせている子供を料理から引き離し、宴会用の料理にはまだ手がつけられないので玉子巻きを注文した。しかも、厚さ 1cm 位の一口サイズに切って欲しいと面倒なお願いをした。普段からろくな物を食べさせていないのが、バレてしまうのではない。

加賀家は離乳食を持参していた。加賀家の大智(だいち)君は、12 月 24 日で 1 歳になる。うちの桜来(さくら)は 1 歳 8 ヶ月。2 週間位前に加賀家にお邪魔して遊んだのだが、大智君はその時よりも一層大きくなったように見えた。車を移動しに行き戻ってきた加賀氏の姿を見ると、大智君は急に泣き出した。「パパが来たらイヤだよ～！」と泣いているのね。うちの桜来が大智君くらいの時、「パパイヤー！(果物ではない)」と良く泣いていたので、私の推理は間違いはないと思った。でも、「パパ抱っこ～！」という意味だったらいい。大智君はパパっ子で、パパに抱かれるとご機嫌になった。加賀氏も「ハイハイ」と、大智君に好かれていることに嬉しそう。

この光景を見ると、うちの旦那様は可哀相だったな～と思う。桜来は、日曜日しか会えない旦那に人見知りをして、抱かれるとのけぞり、思いっきり泣いて抵抗してしまうのである。旦那も旦那でイジケて子供と遊ばないので悪循環が続く続く...。そのうち、「オヤジ、キモイ～。近寄らないで！」と煙たがられるのに。こりゃイカンと心配したが、今ではきちんとパパと認識してもらえたようだ。ひと時の(?)良い父娘関係を大切に、たまに二人きりで遊びに出かけて欲しいものだ。特に、天文行事がある時に...

加賀氏が来ると、大智君はパパから離れなくなった。加賀氏が大智君を抱っこし、加賀夫人が大智君の口にご飯を運んでいた。一口食べては走り回る桜来に比べ、大智君はひたすらモグモグと上手に食べ、とてもお利口さんだった。そして、汚れてしまった口のまわりを加賀氏の服になすりつけて拭き、お顔がキレイになってニコニコ顔。キレイ好きな大智君。...ではなくて、ここで加賀氏が「大智～、服で拭くなよ～！」と困り顔。すると、加賀夫人が「洗ってあげるから」と、優しく一言。場が和む。

前に桜来を連れて加賀家に遊びに行った時、桜来が絨毯やテーブルクロス等、色んなものを汚してしまって恐縮した時にも、「いいよ、掃除機かけるから」「大丈夫。洗えばいいから」と優しく言ってくれ、安心した記憶がある。それ以来、桜来が服を汚しても、「洗えば汚れは落ちる」と思うと、「ま、いいか」と思えるようになった。子供は汚し魔である。いちいち気にしては疲れるだけ。半ば、諦めの境地である。加賀夫人を見習い、私も少し成長したようだ。だが、つい先日、汚されてキレそうになった、いや、キレってしまった出来事がある。

お昼におにぎりを作った時だ。いつもは小さいのをコロコロと 5 個くらい作ってあげるのだが、その日は何か体がだるくて面倒で、手抜きしてちょっと小さめの大人用サイズを 1 個作った。そして、歯も生え揃ったし、もう大きくても食べられるかなと期待していた。お腹が空いているのか、作った先から「よこせよこせ」とせがむので、先に一人で食べさせていた。自分と父の分を作り、食卓に行くと、そこには見たくない光景が広がっていた。大惨事だ。顔・服・テーブル・床、辺り一面ご飯粒だらけ。お皿には、海苔のない、握りつぶしたかのようなおにぎりが載っている。どうやら、海苔だけ先に食べたようだ。そして、海苔のないおにぎりを持って、手にくっついてしまったご飯粒を服やテーブルになすりつけて拭き、それでも取れないご飯粒は手をブンブン振って落としていたようだ。お茶が入ったコップにも手を洗おうとして入れたような形跡がある。その証拠に袖がピチヨピチヨ。初めは、現場のスゴさに顎が外れそうほど驚いたが、逆に「この姿、ビデオに撮ったら面白いかも」と、考える余裕があった。だが、尚も手を振り、足でご飯粒を踏んでいる姿を見て、こりゃ早いと掃除しなければと考え直した。いざ、掃除を始めると、服もテーブルもご飯粒が伸びて糊のようにくっついており、想像以上に掃除がはかどらない。本当にビデオどころではなく、余りの大変さにだんだんイライラしてくる。何で取れないんだ？ ご飯粒めっ！ このイライラの中、子供が顔や手にいっぱいご飯粒をつけたまま抱っこを要求してくる。「抱っこ？」と聞くと、「てって、洗う」と言う。汚いのがイヤなようだ。仕方なく子供を抱き、手を洗わせ、ご飯粒だらけの服を脱がせた。ご飯粒が散乱しているところを避け、子供を解放し、私はご飯粒拾いに精を出した。やれやれ...。とても大変な作業を終え、やっと片付

いたと思ったところで、またもや見たくないものを見てしまった。手を振って落としたご飯粒が1メートル後ろの絨毯にまで飛んでいたらしく、子供がそれを見つけては足で踏んで遊んでいたのである。小悪魔だ。子供のお尻にシッポが見える。怒らないように頑張っていたが、更に大変そうな作業をしないといけないことに腹が立ち、怒り爆発。「コラッ、さくら！何やってんの！STOP！」。ツカツカと歩いて行き、今、正にご飯粒を踏んでいたその足を持ち上げ、「めっ！」と一喝。

大声にビクついている子供を抱え、奥の部屋に押し込み、襖をピシャリと閉めた。奥の部屋は、反省部屋である。その後、子供に服を着せることも忘れ、私は一人でぶち切れながら絨毯と一体化したご飯粒を絨毯の毛ごとむしっていた。よく考えれば、子供は悪くない。全部、手抜きしようとした自分が悪いのだ。しかも、「叱る」のではなく、怒ってしまった。1歳の子供に怒ってどうする。掃除を終え、子供に謝ろうと襖を開けると、父のパソコンのPCカードを入れる穴(?)に、紙を突っ込んでイタズラしている子供がいた。どうりで泣きもせず、大人しくしていると思った。ここは、テープを貼っても剥がしてイタズラされる。何度も注意しているので、私と目が合った瞬間、子供は顔を伏せた。ダメだと分かっているイタズラしているのだ。謝るのを忘れ、「ここに紙を入れたら壊れちゃうからダメって言ってるよね」と叱ったのは言うまでもない。こういう時、他の人ならどう対処するのか見てみたい。とりあえず、小悪魔に対応できるよう、私は堪忍袋が擦り減って穴が空くまで修行しなければならないようだ。修行するぞ～修行するぞ～…。

さて、子供たちが食事をしていると、垣内睦美さんと谷口明美さんが到着。加賀一家&谷口夫妻は、梅の花が見頃の時、“平岡梅林公園”でバツタリ出会ったらしい。その同じ時期の数日前に、私も子供の予防接種で東保健センターに行き、谷口さんに会っていた。丁度、異動になったばかりだったようで、偶然発見してお互いにビックリ。その後、一歳半健診でもお会いした。仕事場で見ると谷口さんは、天文ジャンパーを着込んでいる谷口さんとは印象が違い、どこのお嬢様？と思うくらい、キレイなお姉さんに見えた。垣内さんにも1度、札幌ドーム(サッカー観戦)で会った。私は、短大の時の友達と観に行っていたのだが、試合は子供がグズったので場内を散歩してばかりで殆ど見れず、しかも、オムツ替えしている間に試合終了。こんななら来なきゃ良かったと後悔しながら、一目散に地下鉄駅に向かう人々の流れに逆らって、殆ど座ることの無かった席に荷物を取りに戻ったのだった。試合会場に在るのに試合結果が分からないなんて、テレビ中継で見るとより悪い。子守で疲れただけで、ただただ虚しかった。だが、ここで垣内さんに遭遇。オムツ替えしている間に試合終了したことも良い笑い話になり、垣内さんの笑顔でムシャクシャしていた気分が明るくなった。この時は、垣内さんに感謝したいほど会えて嬉しかった記憶がある。谷口さんも垣内さんも、相変わらずニコニコ笑顔で元気そうだった。

忘年会が始まる

時間は19時を過ぎたというのに、幹事も会長も現れず、他のメンバーも現れない。皆で「会長が遅れるなんて、珍しいねー」と話していると、会長が到着。会長「子供の写真撮るから抱っこして並べ。抱っこするの、親じゃない方がいいな」ということで、谷口さんと垣内さん

がコッコを抱いてパチリ。会長「何だ？電池がないな。谷口さん、電池持っていないか？」。谷口「あ、ありますよ」会長「貸してくれ」。谷口「あ、でも私、デジカメを新しく買ったんですよ...」。今の谷口さんのデジカメは、会長のとは電池が合わないらしい。電池がなくても一応コッコの写真は撮れたようだ。会長は「しょうがねえなあ～。ちっ！」と言いながら、全然使っていないのに電池がなくなったというデジカメを持って一番奥の二つある席の向かって左側に座った。



忘年会に会員外のおこちゃま2名が参加。谷口明美・垣内睦美お姉ちゃんに抱かれてご満悦。親に似てけって品の良い顔立ちでないところがご愛敬か...

会長「ちょっと、醤油ないか？」。川口「ここにありません」。会長「ちょっと、醤油取ってくれ」。そう言われ、私は子供に玉子巻きを食べさせる時に宴会テーブルから持ってきた醤油を会長に手渡した。何の疑問も持たずに手渡した。これが、失敗の元だった。数ヶ月だが、天文倶楽部から離れていてすっかり忘れてしまっていた。会長は、料理があれば、人を待たずに食べ始める人だったということ...。こうして大皿に盛られた刺身は、誰も気付かぬうちに、どんどん会長のお腹の中に消えていったのだった。

ようやく佐藤夫妻が到着。遅いぞ！佐藤夫人「何か、保育園みたいになってるね...」。子供たちは遊んでくれる大人が沢山いるのでご機嫌だ。さて、そろそろ席につこうとしたところで、ようやく「ウマイ、ウマイ」と既に食べ始めていた会長に気付き、一同唖然とする。要領の良い垣内&谷口さんは、「会長と同じテーブルだと、料理が当たらない」と、思いっきり離れた席につく。向かって会長の右隣には佐藤氏が率先して座り、その角に佐藤夫人が座った。チョロチョロ動き回るコッコに気を取られていた私は、会長と同じテーブルのすぐ隣の角席につくはめに...。そして、私の隣に加賀夫妻が座った。

ビールなどを頼み、宴会が始まる。「乾杯！」。グラスがカチンカチンと音を立てる。乾杯好きの桜来も心優しい人たちにグラスをカチンカチンとやってもらい、大満足。ついにくれたジュースを一気に飲み干していた。これが、本当の「乾杯」だ。食べるより遊ぶ方が忙しい桜来は、家から持参したおもちゃで一人遊びを始めた。これを良いことに、私は食べることに集中することにした。なんてったって、会長と同じ皿の料理をつつかなければならない。戦争である。

刺身は、すでに食い散らかしたような状態。悲しい。「ここには何があったんだ？」と、隣のテーブルの、まだ

手のつけられていないキレイに盛られた皿と見比べてしまう。見比べている間にも誰かの箸がのび、刺身はなくなっていく。ここで、佐藤さんが刺身を醤油皿にポチャリと落とすのを目撃。老いて、手の力が弱くなったのか？醤油がピチョンとしぶきを上げて跳ねた。すかさず佐藤夫人が「ちょっと、大丈夫だった？ 大概にして下さいね」と低い声で厳しい一言。幸い、醤油はテーブルの上に跳ね、ワイシャツやスーツは無事だったようだ。桜来や大智君のように、佐藤氏も小さい智さん(?)だったら大目に見てくれたかもね...



集まりにお子ちゃまが集まるようになると、何の忘年会が分からなくなる。しかし、最初から何の会が分からないので、まっいいか...

鍋奉行(?)の中島さんが到着し、鍋に火が点く。さて、大きい智さん...ではなく、大智君は、加賀氏が面倒を見ていた。加賀夫妻は、夫が食べる時は妻が、妻が食べる時は夫がというように、交互に子供の面倒を見ている。ついでに、桜来の面倒も交互に見てもらえて大変有難かった。桜来は、加賀氏を「(大地君の)お父さん」、加賀夫人を「(大智君の)お母さん」と呼び慕っていた。子供の心配はないのに、早い者勝ち競争(?)には負けていた。刺身どころか、人数分注文したというお寿司まで、まだ食べていないのに無くなっているネタがある。

会長の手にかかれば、「一人1個ずつ」というルールなど存在しない。全て、「早い者勝ち」なのだ。おかずでもおやつでも何でも平等に分け合う平和な家庭で育った私には、「食べないとなくなる」という危機感がない。弟と一つものを切って分けるときも、お互いに相手に大きい方を譲り合っていたので、食べ物で喧嘩をしたこともない。なので、ここのルールについていけず、いつも食べ損なって終わってしまう。つまり割り勘負けすることなのだ。今、気付いたのだが、このルールがあっても私は同じネタを1個以上食べたことがない。他の人も、きっと同じだろう。ということは...? 会長と同じネタ順で箸を進めれば、一人前をきちんと食べられるということか? なーんだ! もっと早く気付いていれば...。次回は、この作戦で一人前完食できるかも? ただし、会長の食べる速さについていければなのだが...

小出美穂さんも到着し、ますます賑やかになった。小出さんは、一週間程入院していたそう。親しらずを放っておいたことが原因で、その菌が顎にまわり(?)、口が1cm程度しか開かなくなったという。そのため、食事も困難。こんな状態なのに、小出さんは児童会館の館長をしており、監査が入るために館長しかできない仕事

があり、マズイぞと書いていても忙しくて病院に行けなかったそう。会長曰く「死にかけた...」大変な状態なのに、やっと行った病院で「何科を受診しようかな?」と、呑気に考えていたらしい。無事、治ったから良いけど、本当に死んでしまっていたら笑えない。忘年会で会えて、本当に良かったよ。死の縁から生還した小出さんは、レジ係のつもりで遊んでいる桜来に、「自分はいくらだろう?」と腕を出した。そして、おもちゃのスクーターを腕に当てられ、「ピッ! 100円しま〜す」と言われていた。

安い! 死にかけたから、おつとめ品?...ではなく、今のところ、「100円」と「70円」しか言えないことを伝えたと、「高い方で良かった」と喜んでいて。関係ないが、入院の話を聞き、密かに私も入院したいな〜と思ってしまった。なるべく痛くなくて、辛くなくて、深刻ではないけど一週間位入院しなくてはいけないのって、出産以外にないかしら? 産婦人科は栄養たっぷりの美味しいご飯が3食と、3時におやつが出た。好きな時に子供を新生児室から連れてきてお世話をし、シャワーも自由に入れたし、睡眠不足だったら助産師さんに子供を預けて眠ることもできた。子供は勿論、私の体も労わってくれて至れり尽せりだった。今、考えると、何と素晴らしい時間だったことが...

それと、同じような待遇で入院できる病気が怪我があったら是非教えていただきたい。とりあえず、皆さん、健康第一で過ごしましょう。特に小出さん! 仕事は誰かが代わりに出来るけど、病気は誰も代われません。自分の娘が仕事のせいで手遅れに...となったら、泣くに泣けません。仕事より、体を優先させて下さいね! 一児の母になった川口より...

かなり遅れて菊地さち子さんが到着。菊地さんは「大丸」の4Fでアルバイトをしており、丁度、子供服売り場も4Fなので、私は時々買物をしに行っては顔を見にアルバイト先に寄っていた。ただ、バイトに出ている日が少ないのでなかなか会えないのだが...。本人曰く、「幻の店員」なのだそう。天文倶楽部の方も、しばらく旭川に住んでいたこともあり、「幽霊会員」だったが、忘年会に復活できて「幽霊会員」からは脱出成功。おめでとう霊会員」だったが、忘年会に復活できて「幽霊会員」からは脱出成功。おめでとう(?)。



久しぶりに顔を見せた福井さん(左:今、菊地姓)。こころなしに大人っぽく(美人)になったかも...

これで、札幌組は長内康志氏と山田将俊君以外、全員揃ったとのこと。忘年会にこんなに人が集まるなら、「札幌天文倶楽部」ではなく、「忘年会倶楽部」に改名した方が良いのでは？ 忘年会のみの活動。参加率 100 %の会員が続出である。...なんて、バカなことを考えていたら、突然会長が皆んなの年齢を聞き始めた。

会長「お前、いくつになった？」。菊地「32 歳です。川口さんと近いんです」。会長「川口、お前は？」。川口「33 になりました」。会長「そこは近いんだな。垣内はいくつだ？」...と、延々と聞き、「若い」だの、「変わらない」だの、「やつれた」だの、「昔と比べて、肌に年齢が出てきた」だの、女性が気にしているところをつつき回してくださった。そして、忘れていたかのように「中島さんはいくつになった？」と、会長。この言葉に中島さんより 1 歳年下の垣内さんが「ブッ！」と、吹き出していた。中島さんは年齢不詳である。

さて、中島さんは何歳でしょう？ ヒントは、来年の 5 月 1 日で 50 歳になる会長と同じ末(ひつじ)年です。なぬっ？ 会長が 50 歳！？ 弾力性のある色艶の良い肌といい、黒々ツツサとした髪の毛といい、カジュアルな服装といい、会長の方が年齢不詳である。因みに、桜来も大智君も未成年だったりします。「中島さんの年齢当てクイズ」の答えが分かった方は、氏名とクイズの答えを明記し、中島さん宛てのメッセージを添え、会長にメール送信して下さい。会報に載せてくれるかもしれません...

会報といえば、会長が「HP で見られるから、もう紙で出さなくてもいいか？」と皆んなに提案した。すると、HP を見られない中島さんは勿論、私も含め、ダイヤルアップ回線等で PC 環境の悪い人達が反対した。HP も時々覗いて見ているが、やはり紙面の方が良い。紙面は、空いた時間に場所を選ばず気軽に読めるのが嬉しい。HP だと PC の前に座っていなければいけない。子供がいると、じっくり読むのは難しいし、何より、うちはダイヤルアップ回線なのでダウンロードに時間がかかるのが辛い。...ということ(どういうこと?)で、会報はやはり紙版で出してくれることになった。安心しつつ、この会報が出始めた頃を思い出す。天文倶楽部発足が 1998 年。しょっちゅう、レポート担当を命ぜられる私の家にはワープロも PC もなく、レポートは手書きしていた。それを、「会長はもう起きているかな？」とか時間を心配しつつ、FAX で「ピーヒョロロ...(モデム音)、ジーッジッ、ブブブ...(紙が流れる音)」と、会長宅に流していた。会長も、「ブブブ...」と FAX を受け取り、それを PC に打ち込む作業もしてくれていたのだ。レポートがくだらなく長いものだから、会長は原稿を打ち込むのにまる一日かかったりする時もあったようだ。会長宅の FAX 用紙が途中で無くなり「〇ページからもう一度流してくれ」と、電話がかかってきたこともあったけ。

今は殆ど使っていないが、あの頃は FAX が大活躍していた。懐かしいですね、会長！ 皆なのの家に PC が普及し始め、それぞれ電子メールでレポートを提出するようになってからも、「拡張子を『.txt』で送ってくれ」「ファイル名に漢字を使ったら読み取れない」「ファイル名は英数字 8 文字以内でつける」等、色々トラブルがあった。通信速度も遅く(うちは未だに変わっていないが)、「画像は 100KB 以内」というルールもあった。そう考えると、数年でハードもソフトも進化して便利になったものだ。また数年で光回線が安くなれば、ダイヤルアップ回線の人たちが光に乗換えて反対がなくなり、本当に HP だけ

の会報になる日がくるかもしれない。問題は、中島さんが PC をいつ購入するか、中島さんの携帯でも HP を見られるようになっていればだが...。それにしても、天文倶楽部ももうすぐ 7 年目に突入か。会発足時に生まれた子は、もうすぐ小学 2 年生だよ。こりゃ、皆んな、歳もとるワケだわ。そろそろ「天文老人倶楽部」に改名する日も近い？

鍋の具がなくなり、佐藤家差し入れのお餅を煮たり、おじやを作ったりして頂いた。おじやのご飯や玉子は、中島さんが持参したものと思われる。お寿司を食べ損なっても、お腹一杯になった。更に、谷口さん差し入れのスイートポテト・垣内さん & 小出さんがそれぞれ差し入れのプリンなど、デザートもそろそろあちこちから沢山出てきた。今まで遊んでいた桜来が、垣内さんの「桜来～！ プリン食べる～？」の声に反応し、一目散にプリン目掛けてやってきた。直ぐにプリンを手に取るかと思ったが、手を伸ばしかけて止まった。桜来「サンタさん、いた。サンタさん、いた」。垣内さんのモロゾフのプリンはクリスマスバージョンだった。透明なカップの蓋のところに可愛いサンタクロースの絵が描いてある。普通の子供なら、「サンタさんが来るよ」と言うのと喜ぶが、うちではその言葉は「なまはげが来るぞ！」みたいな感じである。桜来はサンタが怖いのだ。

スーパーで、歌いながら腰を振って踊る、リアルな顔をしたサンタ人形を見せたらめっちゃくちゃ怖がり、それ以来、「サンタ=怖い人」になってしまった。サンタは怖い、プリンは大好き。蓋を開けると、サンタはいない。心行くまで美味しいプリンを堪能したようだ。私は、桜来の残したおこぼれを貰おうと思っていたが、全部食べられてしまった。プリンを食べる時のように、ご飯も真剣に食べて欲しいものだ。そういえば、桜来は玉子巻きも少ししか食べず、口に入れたものはジュースばかり。お腹が空いているのかもしれない。谷口さんのスイート



卓上にとこ狭ましと並んだ持ち込みおやつ。

ポテトを頂き食べさせようと思ったら、それも一口食べて遊びに行ってしまった。しめしめとばかり、私は美味しいひと時を過ごす。すると、突然、垣内「そういえば、ムライ、巨乳はどうなったの？ 終っちゃったの？」。川口「うん、終了～！ って言ってた」。加賀夫人「前より小さくなるよね」。川口「そうそう、皮も伸びきってるしね...」。この会話を聞いて、会長「あの、太ったやつが日本列島を歩いて痩せる番組、見たか？ あいつも皮が伸びきってヒドイぞ...」。会長の言う、太ったやつというのは、加藤まさるという 200kg ある体重を 100kg を切るま

まで落とすのを目標に日本を縦断して歩いている男の話だ。確かにその人は、急激に体重を落としたためか、お腹や下半身の皮が伸びきって垂れている。胸も、志村けんがおばあさんのコントで使う長ひょろいおっぱいみたいに垂れ下がり、みっともない状態だ。それと、私の胸を比べるかぁ～！ もともと貧乳だから、そこまでヒドくないぞ...、とだけ言っておこう。因みに、この貧乳は産後大きくなることを予想して用意していた授乳ブラがきつくて入らず、F カップの子が使っていたという授乳ブラがピッタリなほど巨大化していた。

最初、普通に腕を振って歩くと、腕が胸に当たってビックリした。前にも横にも大きくなっているから、持っている服の前ボタンが止まらず、ボタン付きの服は羽織るだけ。今は、きっちりボタンが止まり、更に余裕まである。腕を振っても、何にも当たりゃしない。どうして、期間限定なのだろう...。スイートポテトが、少しでも乳の栄養になりますように！...

桜来が「おうちに帰る」と言う。時間は21時30分になろうとしていた。いつもはもう夢の中である。機嫌も悪くならずによく頑張ってくれた。年会費と宴会の会費を払い帰る準備をする。散らかったおもちゃを片付け、子供にジャンパーを着せ、準備完了。川口「会長、お先に帰ります」。会長「オウ、またな！」。佐藤氏「気を付けて帰れよ！」。川口「ハイ！」。靴を履き、見送りしてくれる皆んなに挨拶をした。川口「それでは、お先に失礼します」。見送り1「さくら～、バイバーイ！」。見送り2「さくら～、またね～！」。見送り3「さくら～、おやすみ～！」。一同「さくら～、バイバーイ！」。桜来「バイバイ、またね～」。寂しい...。誰も私にさよならしてくれない...。忘年会だからといって、私の存在まで忘れないで欲しい。ま、存在を忘れられたことも、忘年会ということでは忘れてしまえ。

気を取り直し、鮪政のお父さん・お母さんに挨拶をし、鮪政カレンダーを頂いた。そして、私の車の前に停めて

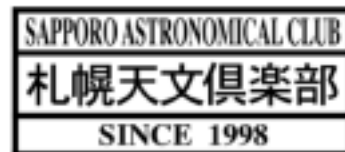
いた車を移動させるため、中島さんも一緒に店を出た。中島「気を付けて帰ってね。良いお年を！」。川口「あっ、忘れてた！ 皆なに『良いお年を』と伝えておいて～！」。こうして、私の忘年会は終わった。帰りの車の中で桜来が寝るかと思ったが、ずっと起きて窓の外の景色を見ていた。家に着くと桜来は「プリン食べた。大智君、遊んだ。おじいちゃんいた」と、ジジに報告し、グズリもせずに寝てくれた。帰りの車の中で、「プリン食べれて良かったね～」大智君、大きくなってたね～、また一緒に遊ぼうね～」と話していたので、プリンと大智君は分かる。でも、最後に言った「おじいちゃん」は、帰りの車では話題にしていない。きっと、桜来の中では「おじいちゃん」が一番印象に残っているのだろう。「おじいちゃんじゃないよ、おじちゃんだよ」と何度も教えたのだが、「いや、あの人はおじちゃんには見えない。どう見てもおじいちゃんだ」と思ったかは定かではないが、桜来はずっと「おじいちゃん」と呼んでいた。さて、その「おじいちゃん」とは、誰のこと？

答えは佐藤智秀氏のことである。桜来は色んな人に遊んでもらっていたが、中でも、佐藤氏のインパクトが強烈だったのだろう。宴会中、桜来に「あそこにいるおじちゃん、バナナが好きなんだよ。バナナ、ハイどうぞ...したら喜ぶよ」と教え、おもちゃのバナナを持って行かせたのだ。佐藤氏は「んー！ ありがとう！」と満面の笑みでバナナを受け取り、大事そうに胸のポケットに仕舞った。それが嬉しかったのか、その後もみかんを持ったり、コロッケを持ったりして、桜来のマイブームの「貸して！ ハイ、どうぞ！ 遊び」をもらったのだ。おじいちゃん、孫の扱いがウマイ！ 次回の忘年会でも桜来と遊んでくださいネ。

ということで、桜来も忘年会倶楽部(?)に入会させます。今後も、母子共に宜しくお願いします。それでは、また来年～！



鮪政のおかみさん(左から二人目)と久しぶりの記念撮影



札幌天文倶楽部 会報「デネブ」 第58号

発行日 2005(平成17)年3月14日(印刷)

発行者 渡辺 和郎

編集委員 末澤朋代 今野利秋 川口裕美 神島麻子

印刷所 阪野テクニカル工房

発行所 札幌天文倶楽部 事務局

ホームページ http://technical-atr.com/wata_hp/newpage1.htm

〒062-0933

札幌市豊平区平岸3条13丁目1-16 佐藤智秀 方

電話 携帯080-1877-0306